

一つの淡い夢が、
若さ特有の向こう見ずな
志に触れて発火し、
一人の民族学者が生れた。

メキシコ、カリブ海、ブラジル……。

精神の混血地帯としての〈アメリカス〉の辺境を彷徨うように移動し、

民の薄墨色の声を聞き、隠された歴史の真の語り部たちとの鮮烈な出会いを経るうちに、

彼はあるとき自らが吟遊詩人となる道に踏み出しているのを発見する。

だがそれはもはや、叙事の物語を旋律に乗せて歌い旅するかつての吟遊詩人にただ遠ることはなかった。

知の群島を遍歴しながら、現代の吟遊詩人として生きるあらたな方法の探究がその時から始まった……。

今福龍太が東京外国語大学「最終講義」に代えて、
映像・音楽・詩の朗読・語り・対話・パフォーマンスのすべての要素を織り交ぜ、
30年にわたる思考と著作の軌跡を舞台上で演出・上演する、
まったく新しい表現世界としての《オペラ・サウダージ》。



今福 龍太 Ryuta Imafuku

1955年東京生まれ。文化人類学者。2005年より東京外国語大学大学院教授。

クレオール文化研究の第一人者。2002年より奄美自由大学主宰。

奄美では唄者、沖縄では吟遊詩人。詩誌『KANA』同人。

こだわりの場所にメキシコ、バハ・カリフォルニア、ブラジル、キューバ、台湾、琉球弧、アイルランド、世界中の汀。

食べ物はフェイジョン、パモニーヤ、チボトレ、ムグンザー、バクチャー。

夕暮れになればキルケニー、カシャーサ、シュタベントゥン、天草、レツイーナ。

主な著書に『ここではない場所』、『ミニマ・グラシア』、『薄墨色の文法』、『ジェロニモたちの方舟』(以上、岩波書店)、

『レヴィ=ストロース 夜と音楽』、『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』(以上、みすず書房)、『ブラジル映画史講義』(現代企画室)、

『小さな夜をこえて——対話集成』(水声社)、『宮沢賢治 テクノポールの叢智』(新潮選書)、

『ボルヘス「伝奇集」 迷宮の夢見る虎』(慶應義塾大学出版会)など多数。

主著『クレオール主義』、『群島-世界論』を含む著作集『今福龍太コレクション《バルティータ》』(全五巻、水声社)が2018年に完結。

共演者(予定)

内藤晃 | ピアニスト 中村達哉 | ダンサー 大山もも代 | ヴォイス・アーティスト 中村隆之 | カリブ海文学思想研究者
仲野孝比古 | エピグラマー・レック奏者 立石奈穂 | ウード奏者 神宮一樹 | 舞台劇アクター 高橋由佳 | ダンサー 他

会場アクセス

東京外国語大学 プロメテウスホール

東京都府中市朝日町3-11-1 アゴラ・グローバル1階

JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分

京王線「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バス10分 「東京外国語大前」で下車



お願い | 同会場での懇親会参加希望者はその旨あらかじめメールにてご連絡いただければ幸いです。

ご連絡・お問い合わせ | 今福龍太〈オペラ・サウダージ〉実行委員会 cafemaster@cafecreole.net